

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成28年5月20日	評価結果市町村受理日	平成28年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年6月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕の申し送りの際に理念の確認を行っている。その他、ホーム全体としての月ごとの目標があったり、個人目標、ユニット目標を決めており、実践の継続や実践に繋がるよう日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「資源回収」や「子供神輿」「1円玉募金」など、町内からの案内があった場合には、できる限り参加している。また、近隣を散歩中に挨拶を交わすこともある。今後も地域との関わりを大事にしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加した際や近隣の散歩などを通して、少しでも認知症の方への対応や様子を理解していただけるよう取り組んでいるが、まだまだ不十分であると感じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、行事や事故、看取り事例などホームでの取り組み状況を報告している。最近では他事業所職員の方もおり、情報交換の場となっている。サービスの向上に繋がる意見交換が出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が対応しているが、市または区の主権による会議への参加や事故が発生した場合の報告、さらに生活保護の方がいる為区の保護課との電話や来設時のやりとりなどを通して関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は交通量が多いこともあり、安全面から玄関およびユニットドアの施錠を行っている。しかし、利用者の希望に合わせて外出の支援は行っている。また、日々のケアについても身体拘束にならないよう考えながら、環境整備や対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や内部研修、管理者とリーダーが参加している合同会議の中で虐待について話題が取り上げられており、定期的に学んだり、再確認ができています。また、新聞に虐待の記事があれば切り取り、申し送りノートに貼り、周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいない為、このような制度があることは知っていても、全職員が内容の把握までできていない。今後、利用する方のためにも学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書を参照し、補足しながら管理者より説明を行っている。時間をかけてゆっくりと理解や同意を得ながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、希望や要望を伺うようにしている。必要に応じて、職員→管理者→本部へ情報を共有し、可能な限り事業所の運営および日々のケアに反映させるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中やユニット会議、管理者・リーダーが参加する合同会議の場などで、職員の意見を聞き取り、必要に応じて対応してくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件に違いはあるが、勤務日数や休日希望など可能な範囲で相談にのってもらえている。その他、休憩時間の確保や年2回本社職員と食事を共にし、現場の状況や相談にのってもらえるなどの交流の場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に管理者またはリーダーと職員とで個人面談を行っており、出来ている点や改善点を伝えている。また、ケアに対しての疑問や対応等についての相談があれば、話を傾聴したり、アドバイスをするなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や運営推進会議、月1回の合同会議等で同業者との交流が少なからず持っている。また、利用者の家族の中にも同業者がいるので、面会時に情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どの利用者においても、環境が変わることへの不安は大きいと思われる。事前にできるだけその方の生活環境や状況等を把握しておいたり、声掛けを行い、少しでも不安が軽減されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談での第一印象も大事であるが、入居してからも関わりを通してどのような家族であるかが解ってくる。それぞれの家族に合わせた対応が必要であり、日々関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、まずはどの利用者も新しい環境に慣れることを第一に取り組んでいる。その他、本人や家族の話をもとに、その方が必要としている支援を取り入れ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事や余暇活動などを通して、利用者から教わる事が多く、常に学ばせていただいている。また、各利用者のできることを活かし、職員よりお願いすることも多く、やりがいに繋がっている方もいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により、本人の近況を伝えたり、その都度希望や要望を伺っている。ただ、頻りに面会に来られる方と中々来られない方では、職員と家族との距離感に差が出てしまうと思うが、今後も関係が深められるよう取り組んでいく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、知り合いや友人が訪ねてくることがあり、家族に許可を得た上で面会をしている。また、元美容師とお客さんという立場で入居している利用者もあり、現在も交流を図ることができているケースもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者間で声を掛け合ったり、困っていると手を貸すなどの様子が確認されている。時に利用者間のトラブルに発展してしまうこともあるが、職員が介入することで程よい関係性が保たれるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからも家族の希望により、入居中に撮った写真を渡したり、退居された方の葬儀に参加するなど必要に応じて連絡を取り合える関係が来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、各利用者の思いや希望等を伺ったり、探りながら把握に努めている。困難な方については、選択肢をもうけたり、家族に伺うなどして情報把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた介護サービスの担当者や相談員より事前情報をもらったり、細かい部分は本人や家族との会話の中から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して活動的に過ごす方や静養をとりながらゆっくりと過ごす方など1日の過ごし方は様々である。各利用者のペースに合わせて臨機応変に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族にも面会時や電話連絡により希望や要望を伺っている。しかし、「お任せします」「今まで通りで」といった返答が多い状況であり、今後も希望や要望等を引き出せるよう取り組んでいきたいと思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分な記録とはいえないが、日々の様子や変化等を記入しており、職員間で情報を共有することができている。また、その情報をもとに実践や介護計画の見直しに繋がるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・要望を伺い、可能な限り柔軟な対応を行うよう取り組んでいる。また、個々に合わせて、様々な地域資源を取り入れており、今後も継続していきたいと思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動や近隣の小学校からのお誘い、中学生の職業体験等により地域の方と交流し楽しんでいる様子が確認されている。訪問美容や皮膚科、歯科なども必要に応じて地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を利用している方が殆どで、2週に1度の訪問診療はもちろん、必要に応じて相談をしたり、診察を受けている。また、本人及び家族の希望があれば他専門医療機関も受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療や週1回の訪問看護の際に利用者の近況を伝えたり、相談しアドバイスをもらうなど、看護師とやり取りする機会を持つことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、1ヵ月過ぎると退居となってしまうことを踏まえ、病院関係者と情報交換を行い、早期に退院ができるよう取り組んでいる。また、退院後も安心して過ごしていただけるよう、お見舞いに行き、状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期ケアが必要であると思われる方については、早い段階から本人の意向を踏まえながら、家族ならびに主治医との話し合いの場を設けている。その中でホームで出来ることや今後の身体状況の変化などの説明を行い、理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、27年11月に一部の職員のみ参加ではあったが、ホーム内で消防による救命講習を受けている。緊急時ファイルを作成し、慌てず対応が出来るよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回のペースで火災や地震を想定した自主訓練を行っている。また、消防立会による避難訓練も実施している。訓練をしていても不安に感じている職員が多いので、引き続き取り組んでいきたいと思う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	細かい部分まで他者の事が気になる利用者がある為、場所を替えて声掛けや対応するようにしている。また、職員間で話す際にもイニシャルを使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や雑誌・チラシなどを見ながら、興味を示していることや好みなど探っている。また、日々飲み物や服など自分で選ぶことが出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や介助が必要な方への関わりが優先してしまいがちではあるが、「～したい」「～に行きたい」との希望が聞かれた際は出来る限り、希望にそって対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より髭剃りや爪切りなど身だしなみの支援を行っている。また、行事の中でも化粧やネイルなどを提供している。好評であった為定期的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、利用者と一緒に 行っており、一人ひとりの出来ることや力を発揮 できる場となっている。食べたい物を伺い、出来 る限り提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	鉄分不足や野菜嫌いな方がいる為、日頃の食 事の様子を見ながら、食事の工夫に努めてい る。また、水分摂取が中々進まない方がおり、好 みの物を提供したり、気分を盛り上げるなどして 促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	起床時や就寝時、毎食後に口腔ケアを行うよう 働きかけている。拒否される方に対しては時間を おいて再度声掛けをしたり、職員を交代するなど し対応に努めている。訪問歯科を利用している 方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の行動や排泄パターンの把握に努 め、出来る限りトイレで排泄が出来るよう声掛け や誘導を行っている。現在、リハビリパンツや パットを使用している方が大半である為、引き続 き取り組んでいきたいと思う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取 り組んでいる	各利用者に合わせて、水分摂取や食事の工夫、 適度な運動、排泄時に腹部マッサージ等行い、 出来る限り薬に頼らず、自然排便に繋がるよう 取り組んでいる。今後も引き続き、対応に努めて いく。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかに入浴日は決めているが、体調不良や拒 否もある為状況に応じて対応している。時には、 希望により利用者同士で入浴されることもある。 入浴時は、個別に関われる時間でもある為、会 話やスキンシップを図るよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて 、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中は活動をメインとし、夜間は安眠できるよ うな支援を心がけている。高齢であることや体調 を考慮しながら状況に応じて、個別に休息の時 間を設けていることで、体力保持に繋がってい ると思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬支援では、担当者が責任を持って服薬支 援にあたっている。また、各入居者が服用してい る薬の把握はもちろん、薬の変更があった場合 にも体調に変化はないか確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 家事活動では、利用者同士で協力し合う場面が 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動では、利用者同士で協力し合う場面が 確認されており、やりがいや役割となっている方 もいる。活動が中々増えていない方もいる為、働 きかけていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に玄関先や近隣への散歩、買物に行かれたり、行事の中でも本人の希望や家族からの情報などをもとに立案し、外出をする機会を持っている。ただ、どうしても自立度の高い方への支援に偏ってしまいがちな為、自立度の低い方への支援にも力を入れていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度を持っている方はいるが、管理が困難であったり、金銭面のトラブルを考え、お金の管理はホーム側で行っている。しかし、外出や買物の際などにお金を渡し、支払いをしていただく場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中々、面会に來られない家族の方より定期的に電話があり、嬉しそうに話されている方がいる。年に1度、行事の中で年賀状を作成し、手渡し又は郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼ毎日、利用者と共に共用空間部分の掃除を行っている。特に温度に敏感であり、気にされている様子がある為、室内の温度・湿度に配慮している。また、日常の様子や行事の写真をユニット内に掲示しており、利用者と写真を見ながら季節を感じたり、会話の機会となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごす方が殆どであるが食堂席やソファ席に分かれ、気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、活動の場となっている。居室でテレビを見たり、静養する等独りの時間を持っている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れたものを持参していただくようお願いをしている。その後も本人の希望やADLの変化により、居室内の配置換えや物品の購入など検討しなければならない部分も出てくるが、随時家族に相談しながら対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の中で、利用者個々の「できること」や「わかること」を活かす為、必要に応じて声掛けや居室内・ユニット内の環境整備を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう日々、工夫に努めている。		